

	<p>改正した第2次プランを議会に報告したいと考えている。ご協力をいただきたい。</p> <p>ご存じのとおり、2008年を上限として国全体が人口減少社会に向かい始め、大きな課題としてとらえられている。それを背景として、男女共同参画の考え方も、働き方改革、人手不足対策として大きく変化してきている。</p> <p>令和2年の国勢調査の一部が発表されたので、ぜひご覧いただきたい。お手元の表(資料)は、平成2年から令和2年までの年代別人口推移を表している。特に緑色の年代(20～34 歳)について、平成17年の国勢調査のタイミングから大きく人口が減少してきている。平成2年時点では、総数9,545人(うち男性4,743人、女性4,802人)で、わずかだが女性の方が59人多かった。ところが、令和2年には総数5,120人(うち男性2,675人、女性2,445人)であり、平成2年と比較すると53.6%と、大きく減少している。その上、女性の方が230人少なくなっている。これは県内全体も同じ傾向にあるが、特に南砺市が顕著として表れている。これでは、結婚もできず、子どもが増える見込みが立たない。</p> <p>一方、南砺市の高齢化率については年々増えている(資料2ページ目)。令和4年1月1日時点で高齢化率が38.88%となっている。しかしながら、65歳以上の人口は、平成30年から令和2年をピークに少しずつ減少傾向に向かっている。もう少し注視する必要があるものの、今がちょうど変化点であり、いよいよ南砺市も、地域を引っ張ってきた高齢の年代層も増えないという状況になってきた。</p> <p>南砺市の一番の課題は人口減少。この2枚の資料を見ただけでも、南砺市が近い将来どうなるのか想像できる。高齢者人口もいよいよ減少を迎える。したがって、何よりも、若者、特に女性に対してどのような施策を打つかが将来の南砺市を決める大きな要因になることにお気づきいただいたことと思う。</p> <p>本日この記念すべき第1回の審議会に、特別講師として須河様をお招きしている。先日6月8日、北日本新聞に掲載された須河様の記事も拝見したが、全くその通りだと感じている。本日の須河様のご講演を踏まえ、しっかりと議論を進めていただけるよう、ご理解とご協力をよろしくお願いしたい。</p>
(3)会長・副会長の選任	<ul style="list-style-type: none"> ・委員からの推薦により、会長は渡邊 美和子氏に決定。(再任) ・会長の推薦により、副会長は佐竹 弘昭氏に決定。(再任)
(4)特別講演	<p>富山県国民健康保険団体連合会 常務理事 須河 弘美氏 (元富山県生活環境文化部長)より、「ジェンダー平等と男女共同参画と女性活躍」というテーマでご講演いただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー平等、男女共同参画、女性活躍とは何か ・それらは同じなのか、違うのか ・男女共同参画はなぜ進めなくてはならないのか ・男女共同参画計画見直しにあたって(議論の際に)留意いただきたいこと

(5)グループ討議

委員3人×4グループに分かれ、以下について議論(20分間)

- ・今日の講演を聞いて感じたことや、新たな視点
- ・所属団体の中で、または組織・個人として、どのようなことができるか(どんな変化が必要か)
- ・現行のプランに関し、南砺市の実情も踏まえ、こういった表現や文言が必要だ、プランに追加する必要があると感じる部分

各グループからの発言は次のとおり。

グループ1:

- ・特別講演を拝聴した上で、まずはそれぞれどういった経緯で審議会に参加したかを議論した。そして、それぞれ所属しているところで男女共同参画に関して感じることを議論した。
- ・年配の方には、いまだに「行事の際に料理を作るのが女性」などといった固定観念がある方もいる。男性も女性もみんなで作ろうという発想になかなかいかない。しかし、その世代の方の発想を根本的に変えることは難しい。逆に、30代・40代が地域を引っ張っていくような流れになってもおもしろいのではないか。
- ・所属団体の中でも、男女における役割が決められている。南砺市の組織自体が変わっていかないと、なかなか広まらないのではないか。

グループ2:

- ・市内のある建設業界の会社では、毎年女性技術者を雇用しているところもある。また、その中には市外から来ている方もいる。先輩女性社員にあこがれて、その会社に入りたいという思いがあったようだ。
- ・建設業界の中では、女性技術者がいることで入札の際に加点されるものもある。それにより、女性技術者の雇用がより積極的になるだろうと感じる。
- ・職場において女性が活躍できる、女性がトップにもものを言えるような雰囲気づくりを積極的に進めておられる業界もある。様々なところで女性の意見を取り入れることが重要だと感じた。

グループ3:

- ・社内での昇進・出世を考え、結婚や出産をしない選択をする女性が多い。出世を考えると、結婚や出産がその人にとってメリットがないからである。そこに、家庭を支え、子どもを育ててくれる男性がいると、結婚や出産にも前向きになれる。しかし、それができていないのは、南砺市は考え方が古い(性別役割分担意識がある)人が多いのが現実だということだろう。それが先ほどの特別講演でもあった数字にも表れている。
- ・考え方を変えていくことが進んでいくかどうか。(特別講演を踏まえると、)「そのうちに」と放っておくと、どんどん人口が減っていくだろう。
- ・病児保育について、今1ヶ所しかないが、なぜないか?と問いかけると「利用がないから」という回答があった。女性が働きやすい環境を考えると、利用がないから減らすのではなく、ではどうしたら利用してもらえるのかということに踏み込んで施策を進めて頂けたらと思う。

	<p>・制度的な部分で、女性が社会に進出しやすいような環境を整えていく事が大切だと思う。</p> <p>・介護業界では、国の政策として、「在宅・地域でみましょう」という流れにあるが、南砺市で家庭・地域で介護するとなると、「女性が」となる。もちろん看不られる人もいるし、施設に預けることも悪いことではなく、選択肢の一つである。昔は「公助・共助・自助」だったが、今は全く逆転している。市として、法的な部分・制度設計から進めていかないと、意識の改革にもつながらないのではないか。今後の審議会の議論の中で実際の現状を見直して、考えていきたい。</p> <p>グループ4:</p> <p>・特別講演の中で衝撃的だったのが、「意識調査」の部分。全国の中でも富山県が低く、その中でもさらに南砺市がすごく低いということに、はたしてそうなのか？と議題した。議論していくうちに、年代の差や置かれている環境の差もあり、自分自身は違うけれど、広く見ていくとそうなのかもしれないと感じた。他人ごとではなく、地域や職場をみても、たしかに管理職の男女比率等が低かったりするので、だからこういった(低い)数字なのかなと考えた。</p> <p>・男女共同参画がこれだけ遅れていることに衝撃を覚えた。</p> <p>・海外で女性の比率が高い理由を考えると、しっかりとした数値目標がある。市でも見直しをするにあたり、数値目標を入れて意識を変えることが大切。しかし、時間のかかることでもある。</p>
(6)会長あいさつ	<p>期待以上のご講演をいただき、各グループ討議への貴重なアドバイスもいただきました。今回会長に再任され、責任を新たにと思っています。</p> <p>今回の特別講演の中で「男女共同参画は人権問題である」とあった。人権擁護委員の立場として、日ごろから同じように思っている。多様性、SDGsが言われている中で、男女共同参画が進むべき方向から少し遅れているように感じながら過ごしていたが、今回の特別講演の中でジェンダー平等などとの関わりを明確にお話しいただき、自分の中でもすっきりした思いである。</p> <p>人権擁護委員の活動目標に17の人権問題があるが、その中に「女性差別」がある。これはいくつかある課題の中で、日常的に、習慣として無意識に受け入れてしまっている差別課題の一つではないかと感じる。その無意識の中で、「南砺市らしさ」に逃げる、(例えば)一歩引いた方が女性らしいといった美徳などもある。すべてを否定するわけではなく今まで蓋をできてしまっていたことを、今年度のプラン見直しを機会に委員みんなですらけ出して、南砺市の存続にもかかわる問題だという視点で進めていかなければいけないと感じた。</p> <p>グループ討議の中で、かなり現実的な課題も出された。次回からは、率直に意見を言える審議会であるように思っている。</p> <p>今の現実を後追いするような見直しではなく、むしろあるべき姿を頭において、(プランの中に)入れていく見直しを、と強く思った。皆さんにもお力をいただきたい。</p>
(7)閉会	午後9時5分